

安全データシート

SDS No.1021-43090

作成日 1998年 3月12日

改訂日 2021年12月 1日 1/5頁

1 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 : Nonanoic acid (Pelargonic acid)
供給者名 : ジーエルサイエンス株式会社
住所 : 東京都新宿区西新宿6-22-1 新宿スクエアタワー30F
電話番号 : 03-5323-6611
FAX番号 : 03-5323-6622
緊急連絡先 : ジーエルサイエンス(株)福島工場 品質保証課 電話 024-533-2244(代表)
製品コード : 1021-43090
整理番号(SDS No.) : 1021-43090
推奨用途 : 標準物質(日本産業規格(JIS)Q0030に定めるもの)
使用上の制限 : 試験・研究用

2 危険有害性の要約

GHS分類 : 皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A
水生環境急性有害性 短期(急性) : 区分3

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 :

H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激
H402 水生生物に有害

注意書き

[安全対策]

P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

[応急処置]

P302+P352 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗うこと。
P305+P351+P338 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P332+P313 皮膚刺激が生じた場合:医師の手当てを受けること。
P337+P313 眼の刺激が続く場合:医師の手当てを受けること。
P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

[保管]

[廃棄]

P501 内容物や容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託
すること。

上記で記載がない危険有害性は分類対象外または分類できない、区分に該当しない。

3 組成及び成分情報

化学物質、混合物の区分	: 化学物質
化学名または一般名	: Nonanoic acid (Pelargonic acid)
慣用名または別名	: n-ノナン酸、ペラルゴン酸
濃度	: --
化学式	: C ₉ H ₁₈ O ₂
官報公示整理番号	: 化審法 : 2-608 安衛法 : 設定されていない
CAS RN	: 112-05-0

4 応急処置

吸入した場合	: 新鮮な空気のある場所に移動し、安静保温に努める。気分が悪い場合は医師の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	: 石鹼と大量の水で洗い流す。刺激が直らない場合、炎症を生じた場合には医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	: 直ちに、コンタクトレンズを外し、少なくとも15分以上大量の水で眼を洗う。直ちに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	: 口をすすぎ、大量の水で薄めて、直ちに医師の手当てを受ける。 無理に吐かせないこと。
暴露した場合	: 医師に連絡すること。汚染された衣類は再使用する場合には洗濯すること。
急性症状および遅発性症状の 最も重要な徴候症状	: データなし
応急措置をする者の保護	: 救助者は適切な保護具を着用すること。

5 火災時の措置

適切な消火剤	: 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素
使ってはならない消火剤	: 棒状水
火災時の特有危険有害性	: 火災時に刺激性もしくは有害なヒューム(またはガス)が発生するため、消火の際には煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
特有の消火方法	: 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
消火を行う者の保護	: 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。呼吸保護具を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	: 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、蒸気/ミスト/粉じん/ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項	: 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。
封じ込め及び浄化の機材及び機材	: 適切な保護具をつけて処理すること。土砂・吸着剤などに吸着させて取り除き、適切に処分すること。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 屋内作業場における取扱い場所では、局所排気装置を使用する。
安全取扱注意事項	: 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。 漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気/ミスト/粉じん/ガスや蒸気を発生させない。 吸い込んだり、眼、皮膚及び衣類に触れないように、適切な保護具を着用する。 取扱場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
衛生対策	: 取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。 指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。 休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではいない。

保管

適切な保管条件	: 直射日光を避け、換気の良い場所で密閉して保管する。
避けるべき保管条件	: 高温の表面、火花、裸火。混触危険物質との接触を避ける。
技術的対策	: 換気のよい場所で容器を密閉し保管する。日光から遮断すること。
混触危険物質	: 強酸化剤、強塩基、強酸
安全な容器包装材料	: ガラス等

8 暴露防止措置

設備対策	: 屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
管理濃度 作業環境評価基準	: 設定されていない
許容濃度	
日本産業衛生学会	: 設定されていない
ACGIH TLV(s)	: 設定されていない
保護具	
呼吸器の保護具	: 保護マスク
手の保護具	: 不浸透性保護手袋
眼の保護具	: 保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣・保護長靴
適切な衛生対策	: マスク等の吸着剤の交換は定期又は使用の都度行う。

9 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 無色～うすい黄色、澄明
臭い	: データなし
融点	: 10°C
沸点	: 254°C
可燃性	: データなし
爆発範囲	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: 8.08mPa.sec (20°C)
溶解度	: 水に不溶。エタノール、エーテルに可溶。
n-オクタノール／水分配係数	
log Po/w	: 3.42
蒸気圧	: データなし
密度/相対密度	: 0.904～0.909g/mL(20°C)
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

10 安定性及び反応性

反応性	: 適切な保管条件下では安定。
化学的安定性	: 適切な保管条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 適切な保管条件下では安定。
避けるべき条件	: 日光、熱、裸火、高温、スパーク、静電気、その他発火源、混触危険物質と接触。
混触危険物質	: 強酸化剤、酸性化合物
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素など

1 1 有害性情報

急性毒性(経口)	: ラット：LDLo=3200mg/kg(PATTY(5th, 2001)vol.5)。
急性毒性(経皮)	: ウサギ：LD50>5000mg/kg(PATTY(5th, 2001)vol.5)。
急性毒性(吸入：粉じん、ミスト)	: ラット：LC50=0.46-3.8mg/L/4h(HSDB(2008))との結果がある。
皮膚腐食性/刺激性	: ヒトの影響としては、健常者116人と皮膚患者75人に、20%当該物質(担体：1-プロパノール)を適用した結果、被験者のうち90-94%が反応し、主に48時間後で紅斑、96時間後で色素沈着を起したとの記述がある(PATTY(5th, 2001)vol.5)。また、閉塞パッチテストで0.5M、1M(担体：1-プロパノール)の濃度の適用で、刺激性を示し(PATTY(5th, 2001)vol.5)、その他にヒトに対し刺激性を示す複数の試験結果が報告されている。また、ウサギを用いた皮膚刺激性試験(GLP：OECD TG 404)において「irritating」の結果がある(IUCLID(2000))。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: ウサギを用いた眼刺激性試験において、「severe irritant」(PATTY(5th, 2001)vol.5)、「highly irritating」(IUCLID(2000))の結果がある。
呼吸器感受性	: データなし
皮膚感受性	: 当該物質は感受性はないと考えられていたが、マウスを用いたLocal Lymph Node Assay(LLNA法)において、高濃度(50%以上)で明らかな陽性反応を示し、感受性物質の可能性があるとの報告がある(HSDB(2008))。ヒトでは、25人のボランティアでパッチテスト(12% in petrolatum)を行った結果、感受性は示さなかったとの報告がある(PATTY(5th, 2001)vol.5)。
生殖細胞変異原性	: in vivo 変異原性試験のデータがない。Ames試験では陰性の結果が得られている(HSDB(2008))。
発がん性	: マウスを用いた発がん性試験において、対照群と比較して皮膚に対する腫瘍発生率の上昇はなかった(IUCLID(2000))との記述がある。
生殖毒性	: ラットの器官形成期を含む妊娠期間に経口投与した発生毒性試験において、親に対して、妊娠率、黄体、着床率などの異常はなく、仔に対しては口蓋裂2例、未熟舌2例、水尿管症1例が認められたものの統計的な有意差はなく、また骨格及び軟組織の奇形に対しても有意差は認められなかったとの記述がある(PATTY(5th, 2001)vol.5)。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: データなし
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: ウサギを用いた4週間の経皮反復曝露試験において、500mg/kg/日(90日換算：167mg/kg/日)で、皮膚に関して、皮膚腐食性/刺激性評価の範疇である局所的な所見が見られたが、他の臓器に関しては鏡検による組織学的検査で異常は認められなかったとの記述がある(PATTY(5th, 2001)vol.5)。ラットを用いた4週間の経口反復曝露試験において、NOAEL>4.17%(飼料中濃度)(体重あたりの投与量及び90日換算：695mg/kg/日)との記述があるが(IUCLID(2000))、試験に関する詳細なデータがない。
誤えん有害性	: データなし

1 2 環境影響情報

水性環境有害性(急性)	: 魚類(ニジマス)による96h-LC50=91mg/L(HSDB, 2000)である。
水性環境有害性(長期間)	: 急性分類は区分3であるが、急速分解性があり(DOC分解度=99%(HSDB, 2008))、生物濃縮性が低いと推定される(LogPow=3.42(PHYSROP Database, 2008))。
残留性・分解性	: 急速分解性があると考えられる。
生態蓄積性	: 濃縮性は低いと推定される。
土壤中の移動性	: データなし
オゾン層への有害性	: 本製品はモントリオール議定書の付属書に列記されていない。

1 3 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

1 4 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	: IMOの規定に従う。
UN No.	: 3265
Proper Shipping Name	: CORROSIVE LIQUID, ACIDIC, ORGANIC, N.O.S.(NONANOIC ACID)
Class	: 8

Packing Group	: III
Marine Pollutant	: Not applicable
航空規制情報	: ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	: 3265
Proper Shipping Name	: Corrosive liquid, acidic, organic, n.o.s. (Nonanoic acid)
Class	: 8
Packing Group	: III
国内規制	
陸上規制	: 国内法令の規定に従う。
海上規制	: 船舶安全法の規定に従う。
国連番号	: 3265
品名	: その他の腐食性物質(有機物)(液体)(酸性のもの)(n-ノナン酸)
クラス	: 8
容器等級	: III
海洋汚染物質	: 非該当
航空規制情報	: 航空法の規定に従う。
国連番号	: 3265
品名	: その他の腐食性物質(有機物)(液体)(酸性のもの)(n-ノナン酸)
国連分類	: 8
容器等級	: III
緊急時応急措置指針番号	: 154

1 5 適用法令

毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	: 非該当
化管法	: 非該当
化審法	: 既存物質
消防法	: 非該当
船舶安全法(危規則)	: 腐食性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
航空法	: 腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)
水質汚濁防止法	: 非該当
大気汚染防止法	: 非該当
土壌汚染対策法	: 非該当

1 6 その他の情報

引用文献等

ezCRIC 日本ケミカルデータベース株式会社
 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質総合情報提供システム(CHRIP)
 化学品安全管理データブック、化学工業日報社
 16918の化学商品、化学工業日報社(2018)化学品安全管理データブック、化学工業日報社
 航空危険物規則書 第62版邦訳 等・他

記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願い致します。